

## 第3回西尾幡豆のグランドデザインを創る有識者会議 会議録

- ・日時：平成21年12月11日（金）10:00～12:00
- ・場所：西尾市役所2階 22B 会議室
- ・出席：（委員）小島誠、平岡将暢、磯貝総一郎、鳥山欽示、  
服部憲明、鈴木正昭、長坂正志、加藤洋一、岡田明美、  
福田利郎、稲垣敏子、鈴木茂、牧野匠、河隅彰二  
（事務局）西尾市 筒井主幹  
一色町 平岩主幹  
吉良町 伴野課長補佐  
幡豆町 大西課長補佐  
合併推進プロジェクトチーム 齋藤主査、岩瀬主査
- ・欠席：（委員）柴田高広、高須芳光

【敬称略】

### 1 小島会長あいさつ

### 2 協議事項

第2回会議の際の各委員の発言・提出意見表に基づき、委員の意見をキャッチフレーズ（委員から提出）と対応させて5つの重点項目に事務局で分類。写真を取り込む位置を示した雛形を案として作成し、当日の会議資料とした。雛形の構成は、**タイトル 副題 重点5項目**。

重点項目は以下のとおり

- 人が集う。人が興ず。（産業振興）
- 絆を創る。絆を結ぶ。（地域基盤）
- 安心を基盤に。安心を力に。（子育て・高齢者・障害者・教育）
- 地域を守る。自然を守る。（生活環境）
- 共に生きる。共に創る。（協働・地域自治）

西尾幡豆のグランドデザインのタイトルについて

タイトルと副題について、委員から提出された案の一覧表をもとに議論を行い、決定した。

- ・協議の結果、一人2票での多数決投票後、得票数が多かったものについて提案委員がプレゼンテーションを行い、さらに決戦投票を行うこととした。

3票獲得：3タイトル、2票獲得：6タイトルであった。

3票獲得したタイトルは以下のとおり。

- 『新西尾市創造！融合ビッグバンで未来を創ろう！』
- 『自然と人を大切にする産業・文化のまち西尾』
- 『新しい西尾幡豆の創造』 17万都市・160k㎡・30分圏の輪に活力を』

- ・この時点で、委員の意見交換を行った。

- ・他の市の例とは違うものを選ぶべき。
- ・方向性を示したものと、内容を示したものが選出されたが、方向性を示し

たものが良いと思う。具体的な内容は副題や文章で表現すべき。  
・インパクトのあるタイトルにすべき。

・各タイトル提出委員の意見は以下のとおり。

・『新西尾市創造！融合ビッグバンで未来を創ろう！』

世界は、かつてないスピードで変化し続けている。その中で、日本も否応のない変革を迫られ、また、人口構造の急激な変化が、その対応を困難なものにしている。私は、西尾市と幡豆郡三町の合併を、不透明な未来に対する漠然とした不安感と閉塞感を払拭する好機と捉えるべきだと考える。

このタイトルは、未来への挑戦を全ての市民に呼びかけたものである。

前半の「新西尾市創造」は、「天地創造」をイメージしている。新しい市の誕生は、新しい天地の誕生であるべき。一旦、過去を断ち切り、新たな決意と今までにない視点でこの地域を見直し、そこに「新西尾市」というフロンティアを現出させることで、市民の中に新たなエネルギーを作り出す。

次に、「融合ビッグバン」は、ビッグバンによって宇宙が誕生したことを喩えに、この合併が生み出す可能性と多様性の大きさを顕した。特に、この合併の最大の特徴は、産業的にも、地勢的にも、極めて多様な地域が、均質な歴史と文化を背景に、一つになるということ。

このことは計り知れない可能性の源泉になる。特に、未来がこれまでの延長線には考えられない時代にあっては、多様であることは、そのまま、生き残るための最大の武器になる。また、地域文化の均質性は、合併による確執を弱める効果が期待できる。

最後に「未来を創ろう」は、市民自身が主役であり、実践者であり、責任者であることを宣言した言葉。まさに「市民の市民による市民のための新西尾市」を目指す責任が私たち一人ひとりにあり、その責任を各々が果たす中にこそ、その人の居場所と、幸せの実感がある。

・『自然と人を大切にす産業・文化のまち西尾』

愛知圏域の中央南部に位置する新西尾市は、三河湾に面した気候温暖で自然環境に恵まれた所に位置しており、輝かしい歴史・文化を継承して、今日がある。

今回の合併は、旧幡豆郡が新西尾市となることである。

ここで生活する新市民は、人間性、生活習慣、風土等は類似しており、一つの地方自治体としてまとまりのある組織体が形成可能と思われる。また、今までの一市三町であった時よりも、行政経費が大幅に節減可能であり、効果的な自治体運営ができる。一方、規模拡大により、公共・民間ともに、事業活動の進展が期待されることから、民度の向上が図られ、ひいては住民の幸福感が高まることが予測される。

圏域が拡大することにより、あらゆる面で地域交流の機会を多くすることが必要となる。それには、道路を始めとして、移動手段の充実が必要である。また、超高齢化社会を目前にして、生活基盤の整備充実、社会資源の拡大強化が不可欠となる。一方、経済面の向上を図るため、積極的な企業誘致を行い、資金力のアップを目指すことを要する。

・『新しい西尾幡豆の創造』 17万都市・160k m<sup>2</sup>・30分圏の輪に活力を

新圏域には、17万市民・160k m<sup>2</sup>・移動30分圏の中に、清流 海岸線 里山 街の歴史が揃っている。

工業出荷額、商業取扱高、産業生産額プラス を発信していく。新圏域に必要な

なこととしては、

西尾・吉良・幡豆と接する幸田町との関係（将来的合併を含む）

JR（幸田、三ヶ根）、名豊道路のアクセス共有

デンソーや平原・須美工業団地を含めた企業誘致

一色町のアクセス安城一色線の衣浦線までの早期完成

などがあげられる。

・多数決の結果、9 票を獲得した『新西尾市創造！融合ビッグバンで未来を創ろう！』を採用し、文言の精査・修正を行った。

・前半の「創造」と後半の「創ろう」というところが重複している、簡潔にすべき、との観点から、「新西尾市創造」を削り、タイトルは「融合ビッグバンで未来を創ろう！」に決定。

・副題についての議論を行った。

・三河湾、海という言葉は是非入れたい、この地域は矢作川と三河湾によって育った地域である、気候風土によってこの地域の歴史文化が構成された、という観点から「矢作川と三河湾に生まれた歴史あるまち」に決定。

西尾幡豆のグランドデザイン案の策定について

事務局案の文章内容について、意見をいただき訂正を行っていくことを確認。どのような写真が良いかを議論した。

- ・タイトルに込められた委員の想いについて、最初のページに説明書きを入れる。
- ・表紙にはインパクトがある写真をいれ、興味が湧く構成とすべき。
- ・表紙の写真は海の存在感があるものを使用すべき。
- ・西尾幡豆の特色のある写真を使うべき。
- ・多くの人が集っている写真を多く使うべき。
- ・文章も大事だが、写真やデザイン性も重視すべき。可能であれば、お金をかけて作成すべき。
- ・検討会議を1 回追加し、今回の議論の結果を反映した案を見ながら議論する。
- ・読まれる方が関心を持てるよう、内容をまとめた前文を書き加える。

（委員の前文案）：新生「西尾市」の誕生です。それぞれ歴史、文化、自然に恵まれた西尾市、一色町、吉良町、幡豆町がひとつになることで、17 万の人と160k㎡の土地からなる西三河南部で、最大の都市に生まれ変わります。温暖な気候の中で、人情味溢れる純朴な住民自らが、「誇りを持って暮らせるまち」を創りあげるスタートラインに立ちました。

豊かな水、溢れる光、風光明妬で豊穡な土地と海とそこから生み出される幾多の特産物、歴史と文化が香る西三河の小京都。誰に聞かれても自身を持って自慢できる、誇りを持てるまちの条件は万全です。

これらをさらに洗練させ、アピールすることで、人の交流が生まれ、「訪れたいまちに住みたいまち西尾」が誕生します。

一方、誇りだけでは食べていけません。市民生活を支えるためには、雇用の場が確保されていることが必要です。

そのため、道路、鉄道などの交通基盤を整備し、企業誘致を積極的に行うとともに、都市基盤を整備し、豊かに生活できるまちづくりを目指します。市民が安心して暮らしていくために、次世代の夢を育む子育てや教育、医療環境の充実、高齢者や障害を持った人が生き生きと暮らせるよう、地域をあげて取り組みま

しょう。

防犯、防災、交通安全、環境保全にも、安心・安全な暮らしができるよう、市民目線でチェックし、改善しましょう。

市民、企業、行政が共に考え、より良いまちづくりのために行動する。市民全員が、西尾市の素晴らしさを再確認し、安全・安心・快適に暮らしていくために、「情報共有」と「住民参加」を原則とする新たなまちづくりに積極的に参加しましょう。

- ・内容の訂正は次回の会議までに事務局に報告する。

### 3 その他

#### 第4回会議

平成21年12月17日午後1時30分 場所は未定

#### 第5回会議（最終）

平成21年12月24日10時 場所は未定